

さいたま市立大宮北中学校

学校だより 6月号

令和6年5月31日(金)



048 (641) 1214

048 (641) 6680 (さわやか相談室)

<https://omiyakita-j.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標

『人間性豊かな
実践力のある生徒』

- ◆ たしかな学力
- ◆ ゆたかな心情
- ◆ たくましい身体

「できない」と「やらない」

校長 小林 正美

新学期が始まって、早2ヶ月が過ぎましたが、皆さんは新しい学年の生活に慣れたでしょうか。

さて、さいたま市教育委員会では、6月を「いじめ撲滅強化月間」としています。本校でも、いじめ撲滅に向けた学級スローガンづくりや、生徒会によるいじめ撲滅キャンペーンとして、学級委員が集まっていじめ対策委員会での話し合い活動などに取り組んでいます。生徒たちが主体的にいじめについて考え、いじめが起きない学級や集団をつくろうという意識を高めるための良い機会にしたいと考えます。皆さんには、人を思いやる素晴らしい心があります。その「思いやりの心」で、必ずいじめを防ぐことができると信じます。大宮北中生の皆さん、そして保護者、地域の皆様、共に協力し合って、温かく安心・安全な学校をつくっていきましょう。

話は変わりますが、今月は、『できないということとやらないということ、混同しない』というテーマで書かせていただきます。大石順教(おおいしじゅんきょう)さんという女性の、尼僧さん(出家した女性)がいました。順教さんは17歳の時、ある事件に巻き込まれ、両腕を切断されました。ある日、鳥籠の中のカナリヤを見て、心を打たれます。親鳥が雛に口で餌を運んでいる姿を見て、鳥は手が無くても、一所懸命生きていることに気付かされました。そして、順教さんは一大決心をし、筆を口にくわえて苦しい練習を行い書画に優れた才能を発揮するまでになりました。その結果、日展(日本最大の総合美術展)に入選しました。その後順教先生のところには身体の不自由な女性が数人、寝食を共にするようになりました。その人たちは朝5時に起床して庭の草取りを全員で行ったあと、各自の仕事をします。その中の一人の女性(Aさん)に与えられたのは便所の掃除でした。Aさんは絵の修業にきたのに、なんだか当てが外れたような気がしました。右手が使えず左手の肘から先しか動かないAさんは、順教先生の所に来るまで、できないところは両親や兄弟に助けられていました。ですから、便所掃除など、やったことがありません。誰の力も借りず一人で便所掃除など考えられません。「できません」とAさんは答えました。それなら便所を使ってはならないというのが順教先生の返事でした。それは出ていけというのと同じです。絵を習いに来たのですから、出て行くわけにはいきません。順教先生はAさんを井戸に連れていきました。その頃は水道ではなく、ポンプ式の井戸でした。身体が不自由なAさんの力の弱い左手では、とてもポンプを押すことはできません。すると、両手のない順教先生は自分の背中でポンプの柄を押し上げて、次は腋(わき)に挟んで押し下げて見せたのです。Aさんもやってみました。勢いがないから、水はぽたぽたとわずかししか出ません。でも、確かに水は汲めるのです。次はバケツの水を便所まで運ばなければなりません。けれども、肘から先しか動かないAさんの左手の弱い力ではバケツいっぱいの水はとても運べません。順教先生は、Aさんが左手で持てる少しだけの水がバケツの底に溜まったところで運び、便所にもう一つバケツを用意しておいて、それにあける。それを繰り返せば、バケツいっぱいの水を運んだのと同じであると教えました。それからAさんは便器を拭き、床に雑巾をかけます。それには自由に動く足を使います。時間はかかりますが、工夫を凝らせば誰の助けも借りず、確かに自分一人で行えることがわかりました。順教先生はAさんにこう言いました。「あなたはできないと言うが、できないのではなくやらないだけ。やらなくてできるはずがありません。人間やればできないことはない。“できない”と“やらない”を混同してはなりません。」

私がこの話を聞いたとき、今までの自分も、「できないという言葉でごまかして、できるように工夫したり努力したりしないことがあった。」と反省しました。皆さんはどうですか。勉強していて“できない”と“やらない”を混同していませんか。今月は期末テストがあります。悔いの残らないよう全力で準備をして本番に臨んでください。結果を楽しみにしています。また、学校総合体育大会を控えている皆さんも、全力で悔いの残らないよう頑張ってください。